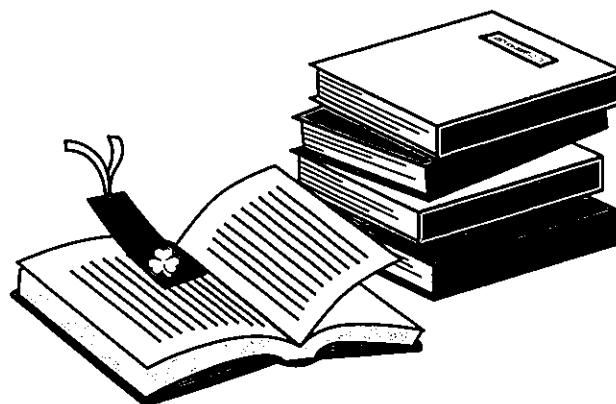


群馬県

学校図書館



60

群馬県小学校中学校教育研究会学校図書館部会

はじめに

学校図書館部会長 渡邊 淳
きよし

時に 初春の令月にして氣淑く風和らぎ
梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薰ず

(ちょうど初春のめでたい月に心地よい風が吹く、のどかな日です。梅の香りがどこからともなく漂ってきて、目の前の蘭は貴婦人の匂い袋のようにほのかに香っています。)

本年度は、五月一日より、元号が「平成」から「令和」に改元された年です。「令和」の典拠は、和歌集の原点「万葉集」、第五巻、梅花の歌三二首の序の一節によるということです。ご存じのとおり万葉集は原本は存在せず、諸写本により伝えられています。万葉集の「葉」は「世」が本意だったとも言われ、和歌の数だけでなく、まさしく千年の後世にまで脈々と伝わる資料、そして、それぞれの時代時代により研究されてきた「歴史的図書資料」であるわけです。

さて元号が「令和」になつた時に、今この文章を読んでいる方で、何人の人が出典の「万葉集」を資料として直接手に取られたでしょうか。多くの方は、パソコンやスマホで検索したことでしょう。今流の方法ではあります。それが小中学生がどういう意味か調べたいと思ったとしたら、小中学校の図書館に子どもたちの好奇心や探求心を満たす術（レファレンスサービ

ス）が時期を逃さず図書館など身近な場所に準備されている必要があります。

図書館法第二条では、図書館の目的として、教養、調査研究、レクリエーションの三つが挙げられ、すべての図書館では調査研究を支援することが求められています。

子供たちの読書活動を支える図書館が長期にわたって利用されるように、空間（施設）・人（職員）・資料の三要素の充実を図るほか、レファレンスサービス、リクエストへの対応など、図書館サービスの基本を忠実に実行することが巡り巡つて子どもたちに豊かな心をはぐくむ読書活動に反映されると思います。本年度八月八日・九日に開催された「第三十五回関東地区学校図書館研究大会・千葉大会」に参加させていただきました。関東各都県では様々な工夫や改善などが発表されていました。二年前の関東大会は、群馬大会でしたが、今大会には、本県からは沼田市立多那中学校・大島崇先生と薄根中学校・兵藤泰明先生に実践発表していただきました。令和二年度夏に利根・沼田支部にて図書館研究協議会で発表をしていただく予定です。ぜひ、皆様のご参集をお願いいたします。

結びになりますが、本年度も各事業を遅滞なく実施出来ましたのは、各支部の支部長さんをはじめ、研究員、審査員の皆様、関係する皆様のご尽力とご協力の賜と感謝いたしております。また、本部会の活動が、令和二年度から本実施となる新しい学習指導要領で「目指す主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善等に生かされる事を信じて巻頭の言葉といたします。

目 次

はじめに

令和元年度青少年読書感想文コンクール	応募数一覧	1
令和元年度読書感想画コンクール	応募数一覧	1
令和元年度青少年読書感想文コンクール	入賞者一覧	2
	県代表作品	4
令和元年度読書感想画コンクール	入賞者一覧	13
	県代表作品	14
群馬県学校図書館研究協議会 年度別開催ブロック一覧		17
令和元年度学校図書館部会事業報告		18
令和元年度学校図書館部会役員名簿		19
群馬県小学校中学校教育研究会学校図書館部会会則		20
編集後記		

令和元年度 青少年読書感想文コンクール応募数一覧表

ブロック	小学校作品数	応募校数	中学校作品数	応募校数
中毛	18, 230	97	15, 059	49
西毛	12, 542	99	9, 537	48
北毛	3, 447	37	2, 186	24
東毛	16, 669	79	11, 285	47
総計	50, 888	312	38, 067	168

令和元年度 青少年読書感想画コンクール応募数一覧表

ブロック	小学校作品数	応募校数	中学校作品数	応募校数
中毛	1, 017	68	107	20
西毛	12, 922	98	330	32
北毛	1, 196	30	215	11
東毛	6, 595	77	231	34
総計	21, 730	273	673	97

**第65回青少年読書感想文全国コンクール
県審査結果表**

《小学校低学年の部》

区分	順位	題名	学校名	氏名	学年
自由 読書	◎ 最優秀賞	しっぱいって、わるくない	高崎市立箕輪小学校	高野 美羽	2
	優秀1位	にが手な さかあがり	沼田市立利根小学校	七五三木 可衣	2
	優秀2位	「千年前から人気作家！ 清少納言と紫式部」を読んで	前橋市立城南小学校	おぎはら 言羽	2
	優秀3位	いのちをいただく	藤岡市立第二小学校	せきね そうま	1
課題 読書	◎ 最優秀賞	もう一人のぼく	みどり市立笠懸北小学校	田中 幸	2
	優秀1位	まじょの のろいアメ	高崎市立南小学校	若林 鼎	1
	優秀2位	「もぐらは すごい」を読んで	前橋市立芳賀小学校	今泉 健太	2
	優秀3位	「こころってどこにあるのでしょうか？」を読んで	館林市立第九小学校	内田 裕唯	1

《小学校中学年の部》

区分	順位	題名	学校名	氏名	学年
自由 読書	◎ 最優秀賞	かあちゃん取扱説明書はオンリーワン	伊勢崎市立北小学校	大川 旺雅	4
	優秀1位	ウーフのくれた勇気	高崎市立豊岡小学校	佐藤 碧羽	4
	優秀2位	「レンタルロボット」を読んで	沼田市立升形小学校	峯川 芽衣	3
	優秀3位	「小学校がなくなる！」を読んで	板倉町立西小学校	飯島 蒼	3
課題 読書	◎ 最優秀賞	「しゅんかん図鑑」を読んで	東吾妻町立坂上小学校	戸矢 さくら	3
	優秀1位	わたしが見つけた科学のこと	渋川市立中郷小学校	針塚 心花	3
	優秀2位	ハチがつなぐおいしい笑顔	伊勢崎市立境剛志小学校	加藤 優奈	4
	優秀3位	心のキズをうめるには	千代田町立西小学校	穂積 礼晃	4

《小学校高学年の部》

区分	順 位	題 名	学 校 名	氏 名	学年
自由 読 書	◎ 最優秀賞	「おばあちゃん、わたしを忘れててもいいよ」を読んで	前橋市立山王小学校	青柳 紗耶	6
	優秀 1 位	私たちの未来への道	館林市立第六小学校	石田 結菜	6
	優秀 2 位	二百二十二人の願い	安中市立安中小学校	伊藤 繼仁	6
	優秀 3 位	本がつなぐ 子どもと未来を	高崎市立滝川小学校	黒岩 蓮	6
課題 読書	◎ 最優秀賞	心のかべから一步ふみ出せ！	沼田市立升形小学校	峯川 晴	6
	優秀 1 位	挑戦	富岡市立高瀬小学校	小川 桜子	6
	優秀 2 位	「マンザナの風にのせて」を読んで	高崎市立南小学校	若林 和敬	6
	優秀 3 位	かべのむこうになにがある？	前橋市立桃井小学校	嶋村 僚太	6

《中学校の部》

区分	順 位	題 名	学 校 名	氏 名	学年
自由 読 書	◎ 最優秀賞	私は「失格」なのか	伊勢崎市立赤堀中学校	横田 結羽	3
	優秀 1 位	平和とは 許すことから	富岡市立西中学校	岡部 桜子	2
	優秀 2 位	「優しい強い心」	高崎市立長野郷中学校	五十部 沙香	3
	優秀 3 位	「愛、深き渦より」を読んで	群馬大学教育学部附属中学校	阿部 柚希	2
課題 読書	◎ 最優秀賞	一歩一歩着実に	前橋市立桂萱中学校	樋口 敦	3
	優秀 1 位	許すことから始まる	安中市立松井田南中学校	小島 未大	3
	優秀 2 位	学ぶということ	富岡市立東中学校	吉澤 凌央	3
	優秀 3 位	問い合わせ続ける	前橋市立東中学校	砂杯 諒	2

☆自由読書

「しつぱいって、わるくない」

高崎市立箕輪小学校二年

高野 美羽

わたしは、しつぱいはぜつたいにしたくないと思っていました。

だつて、しつぱいってこわいから。

「しつぱいはせいのものと。」

なんて、いままでいっぱいしたことがあります。しつぱいなんて、お母さんにも、先生にも聞いたことがあります。しつぱいうのもとだなんて、思えませんでした。

二年生の一学き、きゅうしょくとうばんの時です。わたしは、バットに入つたサラダをはこぼうとして、はんぶんくらいこぼしてしまいました。先生も、友だちも、だれもせめたりしませんでした。でも、みんなのたべるぶんがすくなくなつちやうし、すぐはずかしくて、こわかつたです。それから、そのことは思い出したくなかったです。

でも、この本を読んで、わたしだけじゃなくて、だれでもみんなしつぱいしたことがあるんだとわかりました。

うんどう会のリレーでしつぱいしてしまったかなちゃんをはげますために、いとこや弟たちがじぶんのしつぱいをはつぴょうしました。おじさんやおばさんも、しつぱいをはつぴょうしました。そう、大人でもしつぱいはするつて気がつきました。

わたしは、お母さんに、「どうしたら、しつぱいはせいのものとつて思えるんだろうね。」つて聞いてみました。そうしたら、

「しつぱいしたことがあれば、どうしたらしつぱいするか一つしる」とができるでしょ。おなじことをしなければ、おなじしつぱいはしないんじゃない。」

と、おしゃれてくれました。

そうか、しつぱいはわされるんじやなくて、おなじしつぱいをしないように、思い出せばいいんだ。そう考えたら、しつぱいつてそんなにわるくないなつて思えてきました。

書名 『しつぱいにかんぱい!』

出版社 童心社

著者名 宮川ひろ

☆課題読書

「もう一人のぼく」

みどり市立笠懸北小学校二年

田中 幸

休日、ママがおじごとでいえにいきがあります。そのときは、パパといもうと二人「ぼくです」とします。ママがいないだけで、ほかはなにもかわらないのに、ぼくはいつも「心細く」なります。テレビを見ていても、じはんやおやつをたべっていても、そとであそんでいてもママがいるときとはちがいます。なんでだろう・・・。

この本は、「スタンリー」という男の子と「火星人」が出てくるお話をします。スタンリーはかあさんがとまりがけで出かけることになります。

になりきゅうをはなれることになります。そのかわりに、スタン

リーアンリーライアントは「手をあらわない」、「やさいをたべない」、「がつこ

うにいくと、けんかばつかりする」という自分かつ手なことばかりします。

「ぼくは、へんな気もちになりました。ぼくもママがお

しゃい」とでいなとき、そとであそんでも、「手をあらわない」し、

「すきなものばつかりたべる」し、いもうとと「けんかばつかり」

します。ぼくの中にも「火星人」がいました。ぼくは、「スタン

リーアンリーライアント」にもなります。きっと、スタンリーもそ

うだつたんだと思います。生まれたときからあたり前のようにいつ

もいつしょにいるかあさんがいなくてさみしい気もち。どうさん

がいてもスタンリーのことをよく分かつていながら心細い気も

ち。そんな気もちから「火星人」ができてたんだと思いました。

ぼくは、自分で気づかなかつたけど、「スタンリー」と「火星人」からぼくの知らなかつた「ぼく」を見ることができました。

スタンリーにもぼくにも、きっとだれにも「火星人」がいると思つたら、なんだかとてもあんしんしました。心の中で、「フフフ

フ」とわらつてしまひました。

書名『スタンリーとちいさな火星人』

出版社 あすなろ書房

著者 サイモン・ジエームズ

県代表作品 小学校中学年
☆自由読書

かあちゃん取扱説明書はオンライン

伊勢崎市立北小学校四年 大川 旺雅

本屋に行つて、まつ先にぼくの目にとまつた本。それが「かあちゃん取扱説明書」だ。ぼくがこの本にひかれた理由は、この本のタイトルそのものにある。「取扱説明書」つて、読めば誰にでも操作ができる使えるものだから、お母さんの取扱説明書つてどういうものだろう、と思いながら、あつたらおもしろいなあとついながら本を読み始めた。

ぼくは、この本を読んで思った。この本のてつやの母ちゃんは、ぼくのお母さんとよくにていふといふこと。てつやの「うちの母ちゃんはこうだ。」というエピソードを読みながら、どれだけうなづいていたことか。ぼくもお母さんに、「早くお風呂に入りなさい。」とか「早く勉強しなさい。」「明日のじゅんびはしたの。」とか、いつも「早く」といわれる。ぼくは、今やろうと思つてゐるのに「早く早く」と言われるので、うるさいなあと思うときがよくあるからだ。だから、どこのお母さんも同じなんだと思った。そして、てつやのすゞいところは、このうるさい母ちゃんを自分の思い通りにコントロールして、こうりやくしようと「取扱説明書」を作るというところだ。この取扱説明書を本格的なものにするために、まずは母ちゃんをよく知らないではないと、母ちゃんを研究はじめるのもすゞい。でも、てつやは母ちゃんの取

取扱説明書を書くうちに、しだいに母ちゃんの大変さやすぐさを知り、今まで見えていなかつた母ちゃんに気づいていく。そして、

母ちゃんをこうりやくすること、母ちゃんをきげんよくさせていふことは、実は自分の行いがよくなつていて、母ちゃんの気持ちを考えるようになつていいくところがもつとよいと思つた。

さて、ぼくはどんなふうにお母さんの取扱説明書を書こうかな。てつやのようにお母さんを研究しようかと思つたけれど、意外とぼくはお母さんのことを見つけていた。たとえば、お母さんがぼくを怒るのは、ゲームの時間を守らないとかやくそくをやぶつた時、「早くしなさい」は、ぼくがいつまでもだらだらしているからで、お母さんが怒る時はちゃんと理由があるんだ。それから、お母さんが毎日仕事をがんばっていることも知つていて。仕事がいそがしいのにつかれていても、家の中のこと全部やつてくれる。ぼくのやりたいことは、ひととんつき合つてくれるし、お母さんをかわいいってほめるとよろこぶ。なによりぼくのことが本当に大好きつてこと。だからぼくは気づいたんだ。ぼくのお母さんの取扱説明書は、もう自分の頭の中にもつていていたといふこと。そしてお母さんと一緒にすごす毎日の中で、新しいお母さんと発見するたびにかきかえながら、ぼくとお母さんだけの取扱説明書が作られていくんだなと思つた。

きっとぼくのお母さんもぼくの取扱説明書があるんだよね。だって、ぼくのこと上手にこうりやくしてやるから。

書名 『かあちゃん取扱説明書』

出版社 童心社

著者名 いとうみく

☆課題読書

「しゅんかん図鑑」を読んで

東吾妻町立坂上小学校三年 戸矢 さくら

「科学つておもしろい！しゅんかんを切り取つた」という言葉がすごく気になりました。とくに、切り取つたというのが、どういうことが知りたくてこの本を読んでみました。

この本は、いろいろな物が動いているところを一秒間に何千、何万まいもどつた、しゅんかんの写真がたくさんついている本です。いろいろな物が、いつも見ていてる時と全ぜんちがつて、もうやおもしろい形になつてうつつっていました。おもしろくて次はどんな写真かなとわくわくしてきました。そして、わたしもこんな写真をとつてみたくなりました。

たくさんある写真の中で、一番ふしぎだつたのは、たまごの黄身と白身の落下きよう走の写真です。わたしは、時どき、目玉やきを作ります。からをわるとすぐにフライパンの上に落ちます。黄身と白身はいつしょに落ちていくと思つていました。でも、ちがつていました。からをわると、はじめはしづくくらいの白身ができています。それがだんだん長くのびていました。でも、からを広げると黄身が下になつて落ちていくのです。白身がはじめに落ちてきたのにどうしてだろう。白身より黄身のほうが重いからかなと思いました。

お気に入りのしゅんかんは、シャワーの写真です。シャワーからきらきらしたビーズがでてきているように見えて、とってもき

れいです。シャワーの口に小さなあながあるからだと思いました。理科の先生に聞いてみたら、まばたきをできるだけはやくしたり、

目の前で両手をすばやく動かしながらシャワーを見ると、写真のように見えるよと教えてもらいました。おふろに入つた時、実けんしてみたら、写真にうつっているのと、にたように見えました。

まばたきがシャツターのかわりになつたのかなと思いました。一番心にのこつたしゅんかんは、ミルククラウンの写真です。

牛にゅうなどの少しねばりけのあるえき体をうすく広げたところに、牛にゅうを一とき落とすと、白い王かんの形ができるのです。このげんしょうは本当にすごいと思いました。でも、ほかのジユースとかではできません。わたしもソースやしよう油で実けんしたけどうまくいきませんでした。

たまごの落ちるところ、シャワーから水がでてくるところなど、今まで、気をつけて見たことはありませんでした。でも、ものすごくみじかいしゅん間で切り取つてみると、見たことのないような、びっくりする形に見えることを知りました。わたしたちの生活の中で「当たり前」と思つて見ているとおどろくことや、ふしぎなことがみつかりません。ふつうにある事も、しゅんかん写真のように見方をかえると、おどろきの世界にかわるのだなと思いました。これからは、「これはどうしてだろう」と考えていろいろなことを見ていきたいと思いました。

書名『しゅんかん図鑑』

出版社 小学館

著者名 伊地知 国夫

県代表作品 小学校高学年
☆自由読書

「おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ」を読んで

前橋市立山王小学校六年 青柳 紗耶

この本を本屋さんで見たときに、五月に亡くなつたひいおばあちゃんのことを思い出しました。

主人公のたつ子は両親と認知症になつたおばあちゃんと暮らす五年生です。たつ子は認知症のえいきょうで名前を思い出せないおばあちゃんに、何回も名前を聞かれてさみしい思いをします。大好きなおばあちゃんがどこかへ行つてしまつたようで、とまどうたつ子。そんなある日、たつ子は、おばあちゃんの記憶の回線がつながる「ま法の呪文」を見つけます。認知症になつたおばあちゃんと、たつ子は現実を受け入れ、成長していきます。おばあちゃんの認知症をまわりの人々に知られたくないと思つていたたつ子が、おばあちゃんのことを再び大好きになり、最後は「おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ。それでも、わたしは、おばあちゃんを忘れないから。」と言えるようになつたことに心が温かくなりました。

私のひいおばあちゃんは私と会うと「何年生?」といつも聞いていました。いつも同じことを聞くのが不思議でした。でも、おばあちゃんにひいおばあちゃんは最近のことを忘れちゃうんだと聞きました。「何年生?」「五年生だよ」と、答えると「大きいね」といつも言つてくれるひいおばあちゃんが大きでした。ひ

いおばあちゃんは色々なことを忘れてしまっても、歌が好きで、いつも笑っていて、みんなにありがとうございました。ひいおばあちゃんと最後に話したのは、今年のお正月でした。帰るときには、「ありがとう。また来てね。」とひいおばあちゃんが言つてくれて、あく手しました。色々なことを忘れてしまっても、みんなにありがとうございましたと伝えていたひいおばあちゃんのよう、私も色々なことに感謝できる人になりたいと思います。ひいおばあちゃんには、もう会えなくなつてしまつたけれど、私もたつ子のようにひいおばあちゃんのことを忘れません。

私はこの本を読んで、おばあちゃんが認知症になつても、たつ子を思つていたこと、おばあちゃんは、どんどん忘れていく自分を悲しんでいたことがとても心に残りました。忘れないくのに忘れていつてしまう病気、おばあちゃんはきっとつらかったと思います。たつ子がおばあちゃんのつらい気持ちを理解して、おばあちゃんとの思い出や、これから過ごすおばあちゃんとの時間を大切に過ごそうとする姿は、すてきだなと思いました。

見えない相手の気持ちを考えることは、難しいことです。でも、相手の立場になつて考えることで見えてくることがあります。だから私は、相手の立場にもなつて物事を考えられる人になりたいです。

書名 『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』

出版社 朝日学生新聞社

著者名 緒川さよ

☆課題読書

「心のかべから一歩ふみ出せ！」

沼田市立升形小学校六年 峯川 晴

ぼくはこの本を続けて三回読んだ。何だか心がもやもやしたからだ。三回読んでようやく気がついた。ねこもくまもきつねもらいおんも、それからねずみも、みんなぼくの中にいる。そして、この本を手に取つたことを後悔した。ふれずにいたい自分の弱い部分と向きあわないと感じたからだ。

ねずみ以外の動物たちと同じように、ぼくは臆病だ。失敗するかもしれないから挑戦したくないとか、選択肢なんてないほうが楽に過ごせるとか思うときがある。戦争や災害の悲しい歴史を知るのも怖くて、読んでいた本を閉じたこともある。思い出したくもないけど、実際に、ぼくはかべの中から出なかつたことがある。そして、そのことを悔やんで、長い間苦しんだ。緊張も失敗もせず、きずつくなく過ごせる自分の周りの狭い部分を囲つているのが、この本でいうかべなんじやないか。だけど、ずっとその内側にいたら、決して成長することはできない。

この夏、ぼくは水泳で県大会に行けることになった。「どうせびりになるから出たくない」という考えが頭をよぎつた。けれど次のしゅん間には、この本のことを思い出した。これだ。これが自分の作り出しているかべなんだ。今年この本を読んだのはきっと運命だ。緊張するけど、びりになつても良いから頑張ろうと心に決めた。県大会に行けることを報告すると、両親や、祖父母が

喜んでくれた。いつも応えんしてくれる人たちがいることを忘れてはいけないと思つた。

最初にこの本を読んだときは、仲間なのにらいおんだけを残していつたことを不思議に思つた。でも、今はわかる。かべは、本の心が作り出しているからだ。ぼく自身がそうだつたように、どんなに周りが大丈夫だと言つても、自分がそう思えなければ、かべは消えない。外に出る希望と勇気を持つていたのが、ねずみだつたのはなぜか。もし、らいおんがその役だつたらどうだろう。

「どうせらいおんは強いから、外がこわくないんだ」と思つてしまふ気がする。思いを伝えるのは、伝え方にも工夫が大切だとうこともこの本は教えてくれているのかもしない。

ねずみが外に出たときに言つた、「くらくてこわいせかいだとおもつてた。みんながそういうてたもの」という言葉が印象的だつた。小学六年生のぼくの知つていることはまだほんの少しだ。

周りのみんながそう言つていたら、それを真実だと思いこんでしまうかもしれない。たつた一匹でも、好奇心を持つてかべの向こうのことを知ろうとするねずみのようにぼくもなりたい。

ぼくは、これから何度もかべに出会うだろう。そのときには、今の気持ちを思い出し、勇気を持つて、かべの向こうへと行きたい。それが、きっとぼくの世界を広げていく。そして、周りの友達にもかべが見えているのなら、一緒にその外側へふみ出せるようにはぐくなりの伝え方で手助けしたいと思う。

書名 『かべのむこうになにがある?』

出版社 B.L出版

著者名 ブリッタ・テックントラップ

県代表作品 中学校

☆自由読書

私は「失格」なのか

伊勢崎市立赤堀中学校三年

横田 結羽

人間失格とは、一種の自殺だ。

主人公、大庭葉藏は、他人や不幸を恐れ、幼い頃からひたすら道化を演じた。この作品は、葉藏が酒や薬に溺れ、心中を繰り返して脳病院へ入り、故郷に帰るまでが綴られた手記として描かれている。葉藏は周囲の人間を理解できず、女性関係や非合法な活動、心中未遂や薬に酒と、多くの人が「それは害悪だ」というものに多く手を出しながら生きていた。

此処で私は、太宰治に問いたい。人間失格とはどのようになってしまうか知らない。たつた一匹でも、好奇心を持つてかべの向こうのことを知ろうとするねずみのようにぼくもなりたい。

作中、葉藏はいくつもの恐怖を抱えている。「人間が理解できないこと」「尊敬されること」、この二つが最も大きな恐怖だろう。しかしこの二つは、私にとっても大きな恐怖だ。他人の考えが分からず、皆と考え方が違うことを知ると、私だけ間違つているように感じる。直前まで仲良く話していた相手の悪口を話し始める友人に恐怖する。とつさに笑顔で思つてることを隠していると、嘘だとばれて頭が真っ白になつた。尊敬されても「そこそこ」しかできない私は、眞の天才に行かれた時に、友人に幻

滅されて一人になるのが嫌で、目立たたくない。

葉藏が人間失格なら、私も失格じゃないか。だが本当にこの二つの恐怖を感じる人が、人間失格の烙印を押されるべき人なのか。葉藏は、親にお小言を言われるだけで済むような小さな罪でも、世界の理を侵した様な罪悪感に苛まれている。しかし世の中には、どんなに悪事を働き、他人を傷付けても、「知らなかつた、お前のせいだ、私は悪くない」と言い張り、罪から逃げようとする人もいる。作中の言葉を借りるなら、「あざむき合つていながら、清く明るく朗らかに生きている」のだ。葉藏が人間失格なら、彼等は一体何になるのだろう？

私は、「人間失格」とは、自分の罪の意識が作り出した、周りとは違うという苦しさ、周りに迷惑をかけたという苦しさ、心をひっくり返して全部話せる相手のいない苦しさ、人間を理解できない恐怖、自分は生まれつきの日陰者という自意識・・・幼いころから続く苦痛に耐え切れなくなつた時に考え出した、全てを投げ出すことで得られる逃げ道なのだと思う。つまり、自分が罪の意識をもつていなければ、そよ風程度にも感じない類のものだ。

しかし、一度その道を歩めば、幸福も不幸もない。何も感じられないなら、自殺と何一つ変わらないと思う。体が健康だったとしても、心は自殺してしまつていて。そしてそうなつたら最後、あるのは世間からの哀れみの日と、「自業自得だ」という罵声だけだ。

私は、葉藏は自分の欲より他人を気にして生き、人を自分の不幸に巻き込みたくない、傷付けたくないと思える優しい人だと気付いた。ただ彼は、人より考えすぎ、小さなことも恐れてしまつ

たから、失格の烙印を自らに押すまで道化を演じ続けたのだと思う。

世間はこの話を、「読めば死にたくなる話」と言う。ならば私は、「必死に生きた者の話」と言おう。私は、葉藏が他人を恐怖するのは私達が幽靈を恐怖するのと同じに思えてならない。幽靈を恐怖しても、心霊番組などに惹かれるのと同じで、葉藏も人間に惹かれ、理解したかつたからこそ、必死に生きたのではないか。それでもなければ、恐れている相手に尽くし、自分を偽つてまで生きるなんて意味がない。

確かにこの話は重いと感じるが、私は心から共感し、個性的な登場人物たちの言葉に惹きつけられた。また、葉藏が見せるサヴィス精神にも似た面白い場面にも魅力を感じる。私が最も好きな堀木との言葉遊びの場面も、それに当てはまるだろう。暗いだけで終わらないからこそ、私の心に深く突き刺さり、根を張つたのだと思う。因みに私も、この言葉遊びをしたことがある。対義語を当てる単純な遊びだが、最初のお題で止めた。私に芸術は難しい。

結局私の考えは、「人間失格と言われるべき人はいない。人間失格の烙印を自分に押すかどうかは、自分の価値観で決める」と落ち着く。また、「お前は人間失格だ」と誰かを決めつけることは決してあつてはならない。

私は人間失格だろうか、それとも合格しているだろうか。今はまだ分からない。だからこそ、分からなりに将来、後ろを振り向いて、「恥の多い生涯を送つてきました」と言わなくていいように生きたい。私は、胸を張つて「人間」として生きていた

い。

書名『人間失格』
出版社 角川文庫
著者名 太宰治

☆課題読書

一步一歩着実に

前橋市立桂萱中学校三年 樋口 敦

「受験生なのだからもっと勉強しなさい。」

最近、家族からしつこいほど言われる。しかし私にとつての勉強は決して楽しいものではない。そのうえ勉強する意義もよく分からぬ。だから勉強に十分に力を注げずにいた。そんな中途半端な私を忠敬の言葉が揺さぶった。

「お前は学問をなんと心得ている。」

ドキッとした。行方不明の父を探すため、忠敬に同行した平次。その後に投げかけた忠敬の言葉だ。厳しい自然や環境との闘いが繰り返される蝦夷地での測量。忠敬の覚悟が伝わってくる。同時に、私は自分が忠敬に叱られているような気がした。受験勉強に、匙を投げたくなってしまっている自分がいたからだ。

忠敬の仕事は私の泣き言など比較にならないほど、広大な土地での過酷な作業だった。測量は、歩測係三人が同じ歩幅で歩いて歩数を数え、距離を平均値で割り出すのだという。想像を絶する体力と集中力が必要とする作業だ。忠敬が生涯のうちに歩いた距

離は三万八千キロを超える。なんと地球一周分にほぼ等しい。その事実に私はただただ驚嘆するばかりだ。そして、この気の遠くなるような仕事にひたすら取り組み続けた忠敬に尊敬の念を強くする。

更に驚くべきことに、彼が天文学を志したのは五十歳のときだつた。しかも師は十九歳年下である。当時の人からすれば物好きな年寄りに見られていただろう。仮に私が忠敬だったらどうだろう。いくら師であつても自分よりはるかに年下の師に教わろうといふ気になれただろうか。いや、そんな気持ちには到底なれないだろう。自分が人生経験が豊富だから、という自尊心が邪魔をして。

だが忠敬は違つた。貪欲に学んだ。天文学をとことん追求したい気持ちがそうさせたのだ。彼の学問に対する真摯な姿勢を感じ、私は襟を正したい気持ちになつた。きっと同行した平次もそうだろう。すぐそばにいて、忠敬の息遣いや一挙手一投足を間近に見ていたのだから。父親の消息を知りたいという気持ちからの同行であつたが、やがて測量に対する姿勢が変わつていつたことからもそれが分かる。

私はまだ十五年しか生きていかない。考えてみればその中で勉強した時間は僅かだ。にも拘わらず勉強に身が入らない、あわよくば投げ出そなぞ傲慢だと、今なら思える。忠敬の学ぶ姿勢を知るにつけ、恥ずかしい気持ちになつた。

「一事が万事だよ。小さなことだから、ほかに影響がないから。・そう言つて、いいかげんなことをしていたら悪い癖がついてしまふ。基本をおろそかにせず、コツコツと努力するのが肝心だ。

父上から教わらなかつたか。」

「読み取れない数字を書き込むなど言語道断。測量する意味がない。」

忠敬の言葉はさらに深く私の心に突き刺さつた。彼は小さなことを大切にして測量に取り組んだ。夜は必ず天体観測をして誤差を減らそうとしていたように。それは測量という仕事のそのものの性質から当然なのかもしれない。でもむしろ、私はそこに忠敬の誠実な生き方を感じた。

小さなことを大切に、一つ一つを丁寧に。

それなら私にもできる。実際、単語や漢字のテストなど限られた範囲の勉強は、地道に取り組むことができる。またそれなりの成果を上げることもできている。少しだけ自分に自信をもつていいのかもしれない。生活面でも、当たり前のことを当たり前にできるよう心がけているし、実行しているつもりだ。忠敬がそばにいたら、私の背中を押してくれるだろうか。それでよいのだ、と。「いくら手を伸ばしても、天の星には届かない。だが、頭で道理を考え、手足を動かして測量すれば、地を歩いても星に届くかもしれない。それが学問だ。」

そうなのだ。忠敬が偉業を成し遂げたのは、一步を大事にしたからだ。どんなに大がかりのことでも、まずは一步を踏み出すことが大切なのだ。やつてみなければ始まらない。決して平坦ではない受験勉強も、一歩一歩進む以外ないのだ。たとえ大きな障害があつたとしても、たとえ遠回りになろうとも、目の前にある課題に真摯に取り組み、着実に自分の力になるように学んでいこう。私はそう決意した。

私は忠敬から勉強には終わりがないこと、勉強を始めるのに年齢は関係ないことを教わった。それは、私に大きな可能性があること、そして多くの選択肢があることに気付かせてくれた。忠敬の教えを励みに、一步一歩着実に自分の歩みを進めよう。「学問に王道はない」のだから。

書名　『名星の旅人～伊能忠敬と伝説の怪魚』
出版社　小峰書店
著者名　小前亮

令和元年度 第31回読書感想画コンクール群馬県審査入賞者一覧

部	分	賞名	学校名	氏名	題名	年
小学校低学年	自由読書	最優秀	桐生市立新里東小学校	安藤 陸人	かいじゅうたちのいるところ	3
		優秀1位	みどり市立大間々北小学校	二渡 真伎	島ひきおに	3
		優秀2位	邑楽町立中野東小学校	松中 愛菜	どんぐりと山猫	3
		優秀3位	太田市立葦川西小学校	中村虎汰郎	うみのとしょかん	3
	指定読書	最優秀	渋川市立小野上小学校	荒木 栄	リスとキツネがお話しているよ	2
		優秀1位	高崎市立豊岡小学校	下田 海理	キツネとはじめてのダンス	1
		優秀2位	太田市立太田東小学校	栗原 聖奈	「キツネのはじめてのふゆ」を読んで	2
		優秀3位	邑楽町立長柄小学校	小林 ゆい	キツネのはじめてのふゆ	3
高学年	自由読書	最優秀	伊勢崎市立赤堀小学校	須藤 瑞菜	ツルの絆	6
		優秀1位	大泉町立西小学校	北川 聖那	よだかの星	5
		優秀2位	桐生市立相生小学校	杉戸 海修	月夜のみみずく	5
		優秀3位	渋川市立長尾小学校	中村 葉月	おもいで星がかがやくとき	4
	指定読書	最優秀	渋川市立橋小学校	鈴木 莲	始まりは一つの扉から	4
		優秀1位	沼田市立白沢小学校	星野 蒼人	ぼくたちをたすけて	5
		優秀2位	高崎市立豊岡小学校	下田 衣瑠香	変えるのは・・・人間	5
		優秀3位	前橋市立元総社小学校	矢島 玄太	本の王国にぼくだけの本棚があつたら	6
中学校	自由読書	最優秀	太田市立南中学校	田口 実侑	孤室のセロ奏者	2
		優秀1位	伊勢崎市立赤堀中学校	高橋 莉結奈	美しき古(いにしえ)	1
		優秀2位	高崎市立中尾中学校	竹内 ゆい	葛藤の中の奇跡を	2
		優秀3位	藤岡市立小野中学校	小柏 雅樹	願い	2
	指定読書	最優秀	沼田市立沼田中学校	山本 莲	二つの国の間(はざま)で	2
		優秀1位	伊勢崎市立第一中学校	佐藤 綾花	星月夜の縁結び	2
		優秀2位	高崎市立大類中学校	田貝 美穂	四本足の英雄	2
		優秀3位	桐生市立中央中学校	長澤 美優花	マレスケの心	2

※各区分の「最優秀」と「優秀1位」は、群馬県代表作品として中央コンクールに出品

群馬県学校図書館研究協議会 年度別開催ブロック一覧

年度	ブロック	備 考
13	凍結（関ブロ開催のため）	第26回関東地区学校図書館研究大会（群馬）
14	凍結（関ブロ開催のため）	第33回全国学校図書館研究大会（横浜）
15	東毛（太田・新田）	第27回関東地区学校図書館研究大会（千葉）
16	中毛（勢多）	第34回全国学校図書館研究大会（滋賀）
17	西毛（富岡・甘楽）	第28回関東地区学校図書館研究大会（茨城）
18	中毛（前橋）	第35回全国学校図書館研究大会（福島）
19	北毛（利根）	第29回関東地区学校図書館研究大会（埼玉）
20	東毛（桐生）	第36回全国学校図書館研究大会（熊本）
21	西毛（安中）	第30回関東地区学校図書館研究大会（山梨）
22	中毛（佐波・伊勢崎）	第37回全国学校図書館研究大会（静岡）
23	北毛（吾妻）	第31回関東地区学校図書館研究大会（神奈川）
24	西毛（高崎）	第38回全国学校図書館研究大会（鳥取県米子市）
25	東毛（館林）	第32回関東地区学校図書館研究大会（宇都宮市）
26	中毛（渋川・北群）	第39回全国学校図書館研究大会（山梨）
27	西毛（藤岡・多野）	第33回関東地区学校図書館研究大会（東京）
28	凍結（関ブロ開催のため）	第40回全国学校図書館研究大会（神戸）
29	凍結（関ブロ開催のため）	第34回関東地区学校図書館研究大会（群馬）
30	中毛（前橋）	第41回全国学校図書館研究大会（富山）
31・元	開催せず	第35回関東地区学校図書館研究大会（千葉） 北毛（沼田）発表
2	北毛（沼田）	第42回全国学校図書館研究大会（香川）
3		第36回関東地区学校図書館研究大会（茨城） 東毛（　）発表
4	東毛（　）邑楽 or みどり	第43回全国学校図書館研究大会（　）
5		第37回関東地区学校図書館研究大会（　） 西毛（　）発表
6	西毛（　）	第44回全国学校図書館研究大会（　）
7		第38回関東地区学校図書館研究大会（　）

令和元年度 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会 事業報告

1 総会

令和元年 5月 29日（水） 森東村役場

2 研究員会

- ・第1回 令和元年 6月 28日（金） 森東村役場
研究主題の決定「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」
- ・第2回 令和2年 1月 10日（金） 森東村役場
研究実践集録作成、班別協議
研究実践集録は、各 6部支部へ配布

3 第35回関東地区学校図書館研究大会（千葉）

令和元年 8月 8日（木）～9日（金） 部会長出席

5 第65回青少年読書感想文コンクール

- ・審査会 第1回 令和元年 10月 16日（火） 森東村役場
第2回 令和元年 11月 7日（水） 森東村南部コミュニティセンター
- ・審査結果、応募状況
- ・県代表作品は、11月 27日（火） 全国学校図書館協議会へ送付
- ・全国での入賞はなし

6 第31回読書感想画コンクールについて

- ・県審査会 1月 16日（木） 渋川市立美術館（群造美に審査依頼）
- ・審査結果、応募状況
- ・県代表作品は、1月 20日（月） 中央審査会へ送付
- ・全国での入賞はなし

7 「群馬県学校図書館60」の発行について

- ・群馬県小中学校教育研究会 web ページ掲載予定
 - ・掲載後、周知依頼文を配布
- 群馬県小中学校教育研究会>合同部会>学校図書館部会
- ・保存用DVDは、作成・配付なし

群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

令和元年度 役員名簿

役 職	氏 名	勤 務 校	所 在 地	電話 (上段) FAX (下段)
部会長	中毛 (渋・北) 渡邊 淳	榛東村立南小学校	370-3504 北群馬郡榛東村広馬場1142	0279-54-5727 0279-54-1980
副部会長	研究員会 西毛 (安中) 品田 弘道	安中市立東横野小学校	379-0124 安中市鷺宮3139-2	027-382-5773 027-381-4354
	感想画 会誌後書 北毛 (利根) 桑原 敏江	片品村立片品小学校	378-0415 利根郡片品村鎌田3952	0278-58-3126 0278-58-3351
	感想文 東毛 (みどり) 齋藤 守正	みどり市立大間々東小学校	376-0101 みどり市大間々町大間々456-1	0277-73-1733 0277-70-1193
	中毛 (伊勢崎・佐波) 上西 達也	伊勢崎市立赤堀小学校	370-2204 伊勢崎市西久保1-72	0270-62-0049 0270-62-0089
地区代表支部長	西毛 (藤岡・多野) 金谷佳奈子	藤岡市立日野小学校	375-0045 藤岡市金井658	0274-22-0824 0274-22-0255
	北毛 (沼田) 角田 巧	沼田市立利根小学校	378-0303 沼田市利根町追貝93	0278-25-8172 0278-56-2221
	東毛 (館林) 竹内 昭典	館林市立第二中学校	374-0022 館林市加法師町8-20	0276-72-4074 0276-72-4084
事務局	中毛 (渋・北) 大塚 一彦	榛東村立北小学校	370-3502 北群馬郡榛東村山子田1261	0279-54-3216 0279-54-1974
書記	中毛 (渋・北) 市村 正好	渋川市立渋川中学校	377-0008 渋川市渋川2555-2	0279-22-2548 0279-24-9234
	中毛 (渋・北) 柳井 照明	吉岡町立吉岡中学校	370-3604 北群馬郡吉岡町南下1383-2	0279-54-3213 0279-54-9935
会計	中毛 (渋・北) 小林 澄子	渋川市立三原田小学校	379-1125 渋川市上三原田851-1	0279-56-2320 0279-56-4111
監査	北毛 (吾妻) 齊藤 高弘	東吾妻町立東吾妻中学校	377-0801 吾妻郡東吾妻町原町5230	0279-68-2243 0279-68-5495
	北毛 (吾妻) 木檜 徳子	長野原町立第一小学校	377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5	0279-82-2145 0279-82-2521

群馬県小学校中学校教育研究会学校図書館部会会則

- 第一条 本会は、群馬県小学校中学校教育研究会学校図書館部会とよぶ。
- 第二条 本会は、群馬県下小学校中学校の学校図書館の充実と発展を図り教育の遂行に寄与貢献することを目的とする。
- 第三条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- 一、学校図書館の運営に関する研究と推進
 - 二、読書指導・利用指導の研究と推進
 - 三、その他学校図書館に付帯する事業
- 第四条 本会は、群馬県下小学校・中学校をもつて組織する。
- 第五条 本会は、各郡市に支部をおく。また、本会の事務局は、部会長所在の支部におく。
- 第六条 本会は、次の役員をおく。その任期は一ヵ年とし、再選を妨げない。補欠の任期は前任者の残りの期間とする。
- | | | | |
|-----------|-----|------|-----|
| 一、部会長 | 一名 | 五、書記 | 若干名 |
| 二、副部会長 | 三名 | 六、会計 | 若干名 |
| 三、地区代表支部長 | 四名 | 七、監査 | 若干名 |
| 四、事務局 | 若干名 | | |
- 第七条 本会の役員選出は、別に定める役員選出規定による。
- 第八条 役員の役割は、次のとおりとし、部会長が役員を招集し、本会の重要事項の審議にあたる。
- | | |
|---------|-----------------------------|
| 部会長 | 本会を代表し、会務を総理する。 |
| 副部会長 | 部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、これにかわる。 |
| 地区代表支部長 | 地区を代表し、本会の運営の中心となる。 |
| 事務局 | 本会事務活動の中心となる。 |
| 書記 | 事務局とともに、会務を処理する。 |
| 会計 | 会計事務を行う。 |
- 第九条 本会に、次の部会をおく。

一、小中学校部会

二、学校司書部会

第十一条 本会に、正・副支部長をおき、本会の企画運営推進と支部活動の中心となる。

第十二条 本会に研究員をおき、研究活動を推進する。研究員は、各支部小・中学校ごとに各一名を選出する。

第十三条 本会に次の機関をおき、部会長がこれを招集する。

総会 正副支部長会 役員会 研究員会 学校司書部会

第十四条 総会は、毎年一回開き、次のことを行う。総会には、役員と正副支部長が出席する。

部会長・副部会長及び監査の決定、事業・予算・決算の承認、会則の変更、その他必要な事業を審議決定する。ただし、役員会をもつて総会にかえることができる。

学校司書部会は、別に細則を定めて運営する。

第十五条 本会の経費は、会費・補助金・その他をもつてこれにあてる。

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第十七条 本会に役員会の承認を経て、顧問をおくことができる。

第十八条 部会長は、役員会の協賛を経て、本会運営に関する細則を定めることができる。

第十九条 本会は、全国学校図書館協議会に加入する。

第二十条 本会則は、昭和二十五年一月十九日より実施する。

付記

昭和三十七年六月六日 一部改正（第十五条）

昭和三十九年六月 一部改正（第三・五・七・八条）

昭和四十七年五月三十一日 全面改正

昭和五十二年五月二十日 全面改正

平成三十一年二月二十日 全面改正

編集後記

図書主任や司書教諭として、学校図書館の運営に関わっていたときも、校長として学校図書館の館長となつた今も、「図書室を、子ども達でいっぱいにしたいな」と、いつも思っています。

学校で子ども達に接していると、読書の大切さをひしひしと感じるからです。本を読んでいる子は、考える力や豊かな感じ方、幅広い知識を、どんどん身に付けることができているからです。よく読む子は、自分の気持ちや考えを表現することも、もちろん上手です。考えてみれば、あたりまえのことです。読書をすれば、学年や教科の枠をはるかに超えて、様々な考え方や知識、たくさんの言葉や表現方法を知ることができるのですから。

文科省等の調査でも、「読書は好きですか」という質問に対しても、「当てはまる」と回答した小中学生は、ともに国語や算数の平均正答率が高い結果となつてゐるそうです。（文部科学省・国立教育政策研究所）また、子どもの頃の読書活動が多い子どもほど、大人になつてからの未来志向や社会性などの「意識・能力」が高く、小学校に入学する前や低学年期に読書活動が多かつた高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高い傾向にあるそうです。（独立行政法人 国立青少年教育振興機構）

「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめ」でも、「子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境の整備をしていくことは、極めて重要である」と述べられています。

新年度から小学校で本格実施となる新しい学習指導要領でも、学習としての読書と学校図書館の役割が、明確に位置付けられています。国語科はもちろん、社会科、総合的な学習、特別活動等で、学校図書館を計画的に活用することや、主体的対話的で深い学びの視点からの、授業改善を効果的に進める基盤としての学校図書館の役割が述べられています。

けれども、子ども達の読書離れ、活字離れには、なかなか歯止めがかかりません。子ども達の学校生活にも家庭生活にも、本を読む時間はありません。ゲーム、テレビ、ビデオ、スマートフォンや、インターネット等のコミュニケーションツールの多様化も、子ども達の読書環境に大きな影響を与えていたといわれています。そんな中でも、なんとか「図書室を子ども達でいっぱいにしたいな」と思いつつ、あの手この手で、どの学校も読書活動の推進に取り組んでいるのだと思います。今年度、県の学校図書館部会で行つた読書感想文、読書感想画コンクール等も、子ども達を本に向かわせる、一つのきっかけとしての役割を担うことができたと考えます。

終わりに、今年度、学校図書館部会の活動にご協力をいただきました、たくさんの方々に深く感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

（副部会長 片品村立片品小学校長 桑原 敏江）

令和二年二月二十五日 発行
編集発行者 群馬県小中学校教育研究会
学校図書館部会長 渡邊 淳
(榛東村立南小学校)